

町内婦人部 親睦旅行

田中 律子

去る11月19日(日)、田中野田の町内婦人有志と日帰りバス旅行「天ノ橋立とカニツアー」に行っていました。

幸いにお天気にも恵まれ、日本三景の一つ「天ノ橋立」を眺め、カニ料理に満足しました。そのうえ、平素疎遠になっていた町内のご婦人方とのおしゃべりに花を咲かせ、日頃のストレスの解消も果たし、とても楽しい一日が過ごせました。

この旅行は、普段お隣りや近所とも余り顔を合わすこともなく、ましてや他の組や班の方々とは、何かの会合でもなければ「会うことないなあー」、皆で会って「おしゃべりしたいなあー」と思ってもできないのが現状です。また、町内の婦人たちの横のつながりもほしい。ということから、年に一度くらい旅行をしようということになり、一昨年に続き今年で2回目となりました。

ご案内は、町内会の回覧で参加者を募集いたしました。意外と希望者が少なかったのには反省いたしました。(用事もあったことでしょうか)。

たかが町内旅行 されど町内旅行! 平素たいへん忙しく、家事に育児や仕事に、大どもの世話と……。1、2年に一度の婦人部の旅行、一日ぐらいいはお暇をいただいて、家事を忘れ「ホット」する時間があったのもよいのではと思います。どうぞ、機会がございましたら一緒にいたしませんか。

あいさつ運動のすすめ

最近御南学区の各町内の掲示板等に、あいさつのポスターが貼られているのに気づく。田中野田にも他の町内と同じように、御南小学校の児童の作品が掲示されている。私は児童の登校時に交通指導に立つことがあるが、本当にあいさつを交わす児童が少ないのに驚く。

あいさつは、人がしてくれるのを待てるものではない。人がしてくれてもしてくれなくても、こちらからするものである。相手が子供であろうと年寄りであろうと、男でも女でも別け隔てなくするものである。

こちらから声を出して心を開いていくことによって、相手の心が開き通じ合えるのである。田中野田に住む人々はお互いに誰彼の別なく、心を開いてあいさつを交わしたいものである。あいさつは人間関係をつくる基本であり、真に住みよい温かい町内にしていく第一歩である。

子供は親(大人)の後ろ姿を見て育つといわれる。先ずあいさつは家庭から、親から始めたい。

- (1) 朝起きたら夫婦間で実行する。
- (2) 朝起きたら親子間で実行する。

子供に実行させる前に親から実行する。親がしないで子供にだけ強いるのは、効果もなく長続きしない。あいさつの指導は、子供のすべての躰の指導に通ずるものである。またあいさつのような躰の指導は、学校に任せるのは誤りで、家庭教育の大切な分野であることを肝に銘ずべきである。

(文責 和気)



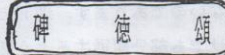
わが郷土を語る(その34-1)

中尾 佐之吉

教育者にして政治家—中仙道の人
故「虫明松次郎」さん
その人の足跡をたずねて

(その1) 頌徳碑は語る

旧今村に頌徳碑が三基建っている。そのうちの一つ、「大森喜一」さんの頌徳碑のことについてはすでに書かせてもらったので、今回は、白鷺宮の境内に頌徳碑の建てられている、「虫明松次郎」さん(上掲写真)のことについて書かせてもらおうと思う。



虫明松次郎さんは、田中野田から北東隣りの中仙道の方で、文久元年(1861年)12月の生まれ、昭和15年(1940年)5月に亡くなられておられる。大正生まれの私も、松次郎さんは近くの方だからお目にかかったことはあるはずのように思えるが記憶にないのである。

松次郎さんの事跡はつぎの碑文によつて知ることができると思うが、親戚の虫明 弘さんから、松次郎さんが青少年時代だった頃の修学の履歴書等を見せていただき、明治初年当時の学制や習学施設などもわかってよい勉強になったので、それらのことにも触れようと思う。

まずは、碑文について見よう。頌徳碑に書かれている文章は左に掲げるとおりですが、漢文なので、私なりにつぎのように現代文に意識してみました。

虫明君通称松次郎岡山県御津郡今村中仙道人天資剛直言必信事必果無以艱難而窮矣明治十五年卒業於師範校在郷僻數月時為御野中
 學助教諭次歷任高等小學校及農學校皆有嘉績退而監督御野塚境
 水所及四千余町歩田園耕種擊焉君選任郡會議員又選與會議員為參
 事會員頗通機微貢獻尤多大正十一年廢郡制也致力郡道移管十五年
 聖上以儲位行啓郡下也為郡閣設実行要項五條以為紀念之業風教大
 興昭和二年開通道路橋梁村民依其澤三年設納稅貯金組合以紀念即
 位大典公私享益凡有事閱民福者指導奔走大勉是以鄉党一心善濟其
 美云頌鄉民欲樹碑永頌其德需文予與君締交不淺乃為記之
 昭和八年三月 森谷敬之 撰並書

虫明君、通称松次郎さんは、岡山県御津郡今村中仙道の人である。天資剛直で、言われることは信頼でき、事を為せば必ず成果をあげられる。艱難なるが故に途中で放棄されるようなことはなかった。

明治15年、師範学校を卒業され、郷里の学校に数か月勤務、招かれて御野中学校助教諭となり、ついで、御野高等小学校及び高松農学校を歴任されて功績をあげられた。(註1)

退職後、御野堰(隼(御野井堰)及び(隼水所(貯水所)の監督(用水組合理事)となられ、田園4千余町歩に係わる用水の調整をはかれた。

君は、郡會議員に選任され、また、県會議員に選ばれては、参事會員となつた。(註2) 頗る機微に通じ多大の貢献をなす。

大正11年郡制廃止となるや郡道移管に力を尽くす。(註3) 大正15年聖上のおぼしめしにより、皇太子殿下(のちの昭和天皇)が郡内を行啓されたが、その際、郷里のために実行要項5か条の記念事業を実施して、教化の成果をあげた。(註4) 昭和2年、道路・橋梁が開通して、村民はその恵沢をうけた。昭和3年、今上天皇即位御大典の記念事業として、納税貯蓄組合を設立し公私ともに受益する。およそ、住民の幸福に関することには、指導奔走大いにこれ勉められた。ここにおいて、郷里の人たちは、一人として虫明君をほめたたえない者はなかった。

近ごろになって、郷土の人々、碑を建て永くその徳をたたえたいと、私に碑文を求められた。私は、虫明君との交友浅からず、よつてこの文を書いた。

昭和8年3月

森谷 敬之 書

註1 最初の勤務先は、児島郡甲浦小学校(今村史には吉備郡庭瀬小学校とあるが)で、隣村、大野小学校の校長もされている。

註2 大正8年、県會議員になっておられる。当時の議員定数は御津郡が2人であった。また、選挙権のある者は、当時、25才以上の男子で、国税(地租)3円以上を納めている者に限られていたから、有権者は地主で概ね一家の主人ということになっていたはずだ。

註3 当時の郡道を県道に移管することに尽力されたわけだが、県道となつた道路は中仙道—米倉線である。この路線の詳しい説明は省略するが、田中野田町内では現在のバス通りがその一部である。(今の人には、あのバス通りが「県道?。」と思われるかもしれないが。)

註4 記念事業の内容は、今となってはよくわからない。

(松次郎さんの「修学の履歴」は次号で)

○校区の幼稚園PTAと連合町内会では、建物が老朽化し敷地も狭い白石幼稚園に代え、御南小学校の敷地内(用地は確保済み)に幼稚園を新設するよう、市に陳情しております。

○町内を歩いていると、犬の糞が目につきます。言うまでもないですが、犬を散歩させる場合は必ず処理具を持参し、飼育者としてのナーを守りましょう。

(編集)